

図書館だより

  No. 4
平成27年7月17日発行

1学期が無事終了しました。「今日からが夏本番だ!!」と意気込んでいる人もきっと多いことでしょう。みなさんの夏休みにはどんな計画が待っていますか。楽しい夏にしてほしいですが、くれぐれも今日受け取った宿題の存在は忘れないようにしてください。また、夏休みも全力で部活動に取り組むぞというみなさん、図書館には各運動部向けの本も置いてあります。レベルアップを目指して、本も活用してください。

さて、図書館では、夏の長期貸出を行っています。貸出冊数も5冊まで増えていますので、この機会にいつもは手に取らないような本にも手を伸ばしてみませんか。読書の幅を広げる好機です。こういう本が読みたい!とリクエストがあれば、私たち司書もおすすめの本の紹介をしますので気軽に声をかけてくださいね。

ひんやり夏のおいしいスイーツ*

5396-7 『冷たいデザートレシピ』 脇 雅世 || 著 成美堂出版

火照った体に嬉しいひんやりおいしいスイーツ。市販のものにもたくさんの種類がありますが、アイスクリームやかき氷のシロップだって、手作りすれば自分好みのものが作れます。その他にも、プリンやゼリー、ムースなど冷やしておいしいスイーツのレシピが満載です。最近、その名をよく耳にするリコッタチーズもなんと手作りできてしまいます。手作りリコッタチーズでパンケーキを作り、さらにその上に手作りのアイスクリームを乗せてみてもいいですね!

今年の夏は食べる楽しさだけでなく、作る楽しさも感じてみましょう。ただし、くれぐれも食べ過ぎには注意してください。

夏だ!海だ!*

452-ナ 『海の辞典』 中村 卓哉 || 著 雷鳥社

夏に行きたくなる場所といえば、海!特に埼玉には海がなく、気軽に行ける距離に海がないので、海を求める気持ちも強いのではないのでしょうか。そんな海が恋しい人たちにすすめてほしいのが、この本です。辞典という名前ではありますが、堅苦しい本ではなく、海にまつわる言葉を海中の写真と共に紹介しています。鮮やかな青、深く濃い青、透き通った青、海の青さは様々です。そんな海の色や波の種類、海中に暮らす生物の姿や名前など、本当に海づくしの本です。どの写真もずっと見ていたくなるような綺麗さで、眺めているだけで、心が癒されていくのを感じます。



図書館カレンダー

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

開館日 閉館日

開館時間 * 8:50~17:00

以上の日程で夏休み中も図書館は開館します。のんびりと読書やDVD鑑賞を楽しむのもよし、宿題や予習復習に取り組むのもよし、たくさん利用してください。

ここでは、夏におすすめの小説を紹介します。

913.6-キ 『八月の六日間』 北村 薫 || 著 角川書店

人生が不調の時に会った山登り。その時、登った滝子山で見た紅葉のアーチと木漏れ日に心を奪われた“わたし”そこから出版社で編集の仕事をするかたわら休日には山女子として山を登る生活が始まった。出発の前、いざ歩き始めた時、登り進めた時、下山した後と、わたしの気持ちの移ろいを描きながら、山っていいなあと読者に思わせる魅力を伝えてくれます。景色の美しさ、荷物に入れたお菓子の特別感、疲れた体を癒してくれる山小屋のありがたさ、出会う人たちとの不思議な絆、わたしを通じて山登りの魅力がたくさん伝わってきます。

B913.6-カ 『ひとなつの。』 角川文庫編集部 || 編 KADOKAWA

夏をテーマに描かれた5つの小説。赤いポストに魅せられ、郵便屋を始めたアオヤマ君の夏。映画監督の母とプロデューサーの父に連れられ、やってきた町の撮影現場となる家でそのまま暮らすことになった小学生のぼくと隣の家に住む女子高生 由奈の夏。母親が勝手に申し込んだサマー・ツアーで沖縄へひとり行くことになった哲太の夏。修学旅行の引率で大学時代を過ごした京都を再び訪れた美術教員の隆文と自由行動の時間を持て余す川野の夏。行き詰まり、青春18きっぷで当てもなく旅に出た俺の夏。それぞれの特別なひと夏の出来事を共に感じてみましょう。



🌸 今月の知っておきたい〇〇の世界 🌸

今月の知っておきたい〇〇の世界、第4回目の今回は“着物の世界”を紹介します。

洋装が主となった現代では、特別な装いのように感じますが、着物は日本人古来の日常着です。みなさんも2年次に総合学習の中でゆかたの着方を学びますが、ゆかたも着物的一种です。

着物の世界を知ることは日本文化に触れるきっかけにもなりますし、着物に施された職人の技には思わず見入ってしまう洗練された美しさがあります。また、着物を纏うことで、姿勢や振る舞いを自然と意識するようになるのを感じたことはありませんか。着物にはそういった長所もあります。着物を知ることで今一度そのよさを再発見してみましょう。



着物を着よう*

593-イ 『きものの着付けとお手入れがわかる本』 石田 節子 || 監修 PHP研究所

ゆかたの着付けができるようになったら次は着物に挑戦してみたいものです。ただ、着物は浴衣と違って、肌着から始まり、長襦袢、着物、そして帯と、着終わるまでにはたくさんの行程が待っていて、「こんなに難しそうなの出来るかな」と不安を感じるかもしれません。しかし、この本ではひとつひとつの行程がカラーの写真付きで丁寧に説明されているので、前向きに挑戦してみましょう。

着付けだけでなく、着物の種類やパーツ・縫い目の名称など、細かに着物を解説してくれています。こうした知識を持っていると、なんだかとても粋ですよ。ぜひ覚えてください。また大切な着物のお手入れの仕方も載っているので、着るのを楽しむだけでなく、長く丈夫に、そして綺麗に使っていくコツを掴みましょう。

普段づかいを楽しむ*

593-イ 『ふだん着物わくわくアイデア帖』 きくち いま || 著 河出書房新社

着物は特別な時のものというイメージを取り払って、洋服のようにコーディネートを楽しめるし、ちょっとしたメイクや工夫をして自分らしさを表現することもできるんだなと、着物を身近に感じさせてくれる本です。どんなおしゃれの仕方があるのか、普段使いの中でどんなことに気をつけたいのか、など着物を着まわすにあたってのノウハウが可愛いイラストつきで紹介されています。洋服のコーディネートを考えるのとは違ったおもしろさがありそうだと、おしゃれが好きなみなさんはワクワクしてくるのではないのでしょうか。手ぬぐいを半えりに、風呂敷をバッグにと、和の小物を活躍させているのも真似してみたいポイントです。家に眠っている着物がある、という人はまずはそっと見せてもらえるようお願いしてみるのもいいですね。

着物で色を知る*

753-ユ 『着物と日本の色』 弓岡 勝美 || 監修・コレクション ピエ・ブックス

日本の伝統色をその色が表現された着物や帯を使って紹介したおもしろい本です。本書の中には、“着物にはどんなオートクチュールにも劣らない色と感性がある”という言葉がありました。中に載っている着物を見ていると「まさにそのとおりだ」と感じます。

どの色味もとても美しく、可愛いものもあれば渋くてカッコいいものもあり、自分が着るならどの色がいいかなと想像しながら読むのもオススメです。また、真朱(しんしゅ)や紫紺(しこん)、紅掛空色(べにかけそらいろ)など、つけられている名前の響きも美しく、目で追うだけでなく声に出して読みたくなります。何より、こんなにたくさんの着物を一度に見ることができるというのがとても新鮮で、着物というアート作品を鑑賞する楽しさが感じられます。

📖 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 📖

宮部みゆきさんの『過ぎ去りし王国の城』(913.6-ミ KADOKAWA)を読みました。普段、ファンタジーを読むことが少ない私ですが、今回の宮部作品は中学生が主人公のファンタジー小説でした。

中学3年生の真が母のお使いで訪れた銀行で見つけた不思議な一枚の絵。小学生の絵にまぎれて、精巧なタッチで描かれた古城の絵は真の興味を引いた。ただそれだけで終わるはずが、アクシデントにより、その絵を持ち帰ってしまった。そして、その夜、真はもっと不思議な体験をすることになる。この絵は一体何なのか。誰が何のために描いたものなのか。この絵の持つ力は良いものなのか、悪いものなのか。怖いけど、知りたい、その気持ちが真を突き動かしていく。

宮部さんの作品の中にはリアルな痛々しさがあって、読者にもその痛みが伝わってくるのが宮部さんのうまいところだなあと感じています。今回も物語の中に自分の感情がすっぽりと入ってしまい、一気に読みました。【今井】



『ジハーディストのベールをかぶった私』 アンナ・エレル || 著 (956-エ 日経BP社)

暑い季節には、怖い話がよく似合う。もちろんこの場合の‘怖い’とは、この本に書かれたような現実の人間の話ではありませんが、冷たい手で心を驚かすにされるような感覚は同じです。むしろ今も世界のどこかで同じことが起こっているかと思うと、恐怖感はまだ強い。ジャーナリストのアンナはメロディーという名の純真なイスラム教徒の女性になりすまし、ISのビレルとネット上で接触を持ちます。きっかけはビレルの出ている動画をシェアしただけです。ネットで語りかけてくるビレル、最初は優しく理想を語り、段々と彼女を支配し、そして家族を捨ててシリアのISへと来るように命令してきます。その過程では、同じような境遇の少女たちも現れます。ちょっとした事で彼女を不信心と罵り、ビレルへの絶対的な服従を強いる手管にはゾッとします。しかもその恐怖には終わりが見えなかったのです。夏の夜のお供にどうぞ。【鈴木】